

女子短距離ブロック 400m 岸 玲伽

—その種目の魅力はどんな所にありますか？—

岸：400m はとっても辛い競技でスピードだけでなく体力も持久走も必要なので、難しい競技だなーって日々思います。でも、努力すればするほど速くなりやすい競技だと思って、そういう面が好きだなーって感じます。あと、気持ちの面も凄く関係していると思って、自分の気持ち次第でタイムが変わってくるところとか、みんなの応援が聞けるっていうのも自分よりも速く走れちゃうところとかも大きな魅力かなーって思ってますー！

—400m は陸上競技で一番辛いって言われているんですけどよねー努力ではやくなる種目とはとて魅力的ですねーそれでは、毎日練習に励んでいる岸さんですが、練習をがんばれるエネルギー源はなんですか？

岸：速くなりたいー！っていつ気持ちが大きいことです。もちろん自分が陸上大好きで走ることが好きだから速くなりたいっていうのもあるんですけど、学芸大で今陸上でできていることは当たり前のことではなくて、多くの人の支えがありできていることだと強く感じているので、大学4年間の結果で恩返ししたい気持ちが大きいです。高校の2年生の最後に「コロナウィルスが流行し始めて、高校3年生最後のインターハイ中止の話が聞きました。気持ちにぽっかり穴が空いてしまってどんどん走れなくなっていました。陸上を続けて、あるか分からない大会に向かって練習を続けるか、早く引退して勉強するか悩んだ時期に、両親が「れいかの好きなようにしなさい。陸上をずっと頑張ってきたのは分かるから、どんな選択をしてもお父さんとお母さんは全力で応援するよ」って言ってくれて、この言葉にすごく救われて陸上を続けることを選びました。ずっと応援してくれて、本当にお父さんお母さんに感謝の気持ちが大きいです。

ずっと練習をみてくださり、面接が下手で1ヶ月間毎日面接を見てくださった顧問の先生や、成績が良くなって学芸大に出願できるか危うかった中「岸は絶対出願する」といって出願させてくれた校長先生、ずっと応援してくれる地元の友達だったり、後輩だったり、沢山の方に支えられて学芸大で陸上ができていると感じています。今も応援してくれる方が沢山いてくれたり、多くの仲間がアドバイスをくれたり、励ましてくれるおかげですっと前を向いて全力で頑張ることができているので、大学4年間のうちに多くの方への感謝の気持ちを結果で恩返しします！そのために全力で練習して、絶対速くなりますー！

—チーム代表としての心持ちは

岸：大会とかすんごく緊張してしまうんですけど、今回の日本インカレはいつもより緊張しています、ーでも、不安が大きい緊張とかではなくて、どんなタイムが出るんだとか、ワクワクしている緊張をしていますーこの大会に出場するにあたり、佐藤先生や清田先生に走り方を見ていただいたり、短女のお姉さん方に練習の仕方やたくさんアドバイスをいただいたり、他ブロックの練習に参加させていただいて、たくさんのお話を吸収できたと思うので、日本インカレで大發揮できるように頑張りますー！